

# 障害のある子との日々

広島市南区の社会福祉法人「天友会」理事長で、障害者が通う作業所2カ所を運営する天方淑枝さん(83)＝南区＝が、知的障害のある次女や作業所の利用者たちとの生活についてつづった本「こころと心遣い」を自費出版した。「障害者やその親が積極的に社会参加するきっかけになればうれしい」と話す。

A5判、125ページで6章構成。「障がい児の母として」の章では、次女嘉子さん(51)が幼稚園に通い始めた当時を振り返り「友達にできることが次女にはできない」と思い悩んだと明かす。一方、教諭や他の園児と触れ合う中で成長す

## 本に成長の次女ら 天方さんの南区



次女や作業所の利用者との生活をつづった著書を手にする天方さん

るわが子の姿に「私自身も多くのことを学んだ」とつづる。

天方さんは、地域に恩返ししたいと1992年と2014年に作業所を開設。現在、計約50人の知的障害者が農作物の栽培や販売に励む。著書では利用者との関わり

にも触れ、「対話の積み重ねで信頼関係が生まれる」「時間がかかっても諦めないで」などと根気強く向き合う必要性を繰り返し説く。

自費出版するのは初めて。10冊を印刷し、大半を市内の中学・高校や知人に配った。希望者には無料で貸し出す。貸し出しの問い合わせはタニシ企画印刷☎082(5332)1315。(木原由維)